

「星の会」の例会

700回記念例会で講演する
加嶋文哉代表 4日、大分市



悩み語り合い7百回

不登校の子を持つ親らでつくる「星の会」は4日、大分市で700回の開催を記念した例会を開いた。活動がスタートして今年で22

年目。加嶋文哉代表は「孤

立しがちな親の悩みや気持ち語り合う場所。これからも地道に活動し続けた」としている。

1994年10月に加嶋代表が佐伯市で星の会の活動

を開始。津久見、大分、別府、豊後大野、由布の各市に広がった。毎月欠かさず開く例会で交流を深める他、不登校や引きこもりを考えるフォーラム、講演会も開催。交流会の内容を紹介する会報も発行してきた。

記念例会には約50人が出席。加嶋代表が「不登校の子どもに何が必要か」と題して講演した。「子どもの心を聞き取り、存在を認めてあげることが大切。説得するより粘り強く提案して、子どもに自己決定できる安心感を与えてほしい」と訴えた。

親の支援の必要性について

「1人で悩めば堂々巡りになって自責の念に駆られ、行き詰まって子どもへの怒りにつながる」と指摘。「同じ立場の親が悩みを打

ち明け聞き取ってもらおう過程で気持ちが楽になり、やがて子どももの心を聞き取りたくなる」と話した。